

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4774800033		
法人名	有限会社 美ら心		
事業所名	グループホーム ああさぎりの里		
所在地	沖縄県宮古島市下地字洲鎌518-1		
自己評価作成日	平成28年11月1日	評価結果市町村受理日	平成29年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47">http://www.kaigokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true&amp;PrefCd=47</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F
訪問調査日	平成28年11月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年々入所者の方は、高齢化が進み身体機能低下、認知機能低下のともない、出来ないことが増えて、職員の介護が重度化している中、一人ひとりの思いを尊重してその人らしさ、どのように感じ、何を求めているのか、それを理解して支えるケアを支援できるよう日々皆でミーティングし改善、変更し体調に合わせてゆっくりと穏やかに過ごして行けるように考え支援している。ご家族、馴染みの人、場所が途切れないように、夏祭り、運動会に参加したり、当所でも行事やイベントを開催して、ご家族や身近な方々を招いて楽しく過ごしていただけるように支援している。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は緑豊かな田園風景広がる閑静な場所にありながらも、近くにスーパーや郵便局、駐在所などがある町の中心街へ歩いて行ける、恵まれた立地となっている。庭園も広く季節の野菜や草花を植えて楽しみ、学校帰りの小学生が立ち寄って遊ぶこともあり、地域に根差した事業所である。市の担当者とも日頃から連携を密にしており、依頼により当施設を台風時の避難場所として受け入れている。看護師二人を中心にして、協力医との連携を密にし、本人や家族の意向を踏まえながら、看取りの支援をおこない、看取りの最期には職員全員でお別れをする等、利用者の一人ひとりの尊厳を大切に支援している。若い職員が多く、のびのびと明るく入居者も和やかに過ごしている。スタッフの入れ替えによりしばらく途絶えていた「あさぎりの里だより」の再発行に前向きに取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 28年 12月 27日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング・研修等で話し合いをし理念に沿った介護を行っている。	理念は居間に掲げ、入居者が読み上げる事もある。職員の気になる行動がある時は、その都度注意をし、朝の挨拶等でも事例として伝え周知を図っている。職員も自分が介護される時の事を考えて日々のケアに当たっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員と一緒に近くのスーパーと一緒に買い物に行ったり、美容室を利用したりしている。	敬老会など事業所の行事には家族や地域の方が参加し、三線やダンス等を披露してくれる。隣の空地为災害時の避難場所する約束がされている。帰宅中の子供達が立ち寄って遊ぶ事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方々に認知性を理解してもらえるよう発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	宮古島市役所、地域包括センター、家族代表・区長・民生委員・地区の駐在所勤務警察官等に参加してもらい活動等を報告し意見を頂いている。前回から他のグループホームにも参加してもらっている。	年に6回定期的に運営推進会議は開催されており、記録も整理されている。議題も報告のみに留まらず、各委員の意見や提案、情報の提供等、運営に生かされている。同業者の参加もあり、参考意見の提案もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター。高齢者支援課と密に連絡を取り合い、開催される研修にも参加している。	市の担当者や地域包括支援センターの方が毎回運営推進会議に参加しており、貴重な意見を頂いている。研修の案内や空床状況の報告等、連携を密にしている。市からの依頼で台風時の緊急避難の受け入れ先となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を実施し身体拘束に関する事は徹底させている。玄関。裏口には鈴を取り付け、施設内外は安心して歩行できるようにしている。	利用者、家族には、入居時に拘束をしないケアの取り組みとリスクを説明し、同意を得ている。研修会を開催し、職員は理解を深め、日々のケアに生かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	宮古島市役所高齢者支援課の虐待・権利擁護担当の社会福祉士をお招きし研修、内部でも研修し虐待、拘束のないケアに取り組んでいる。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を読んでもらって理解を深めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前、退所時に時間を掛けて説明し納得が得られるようにし、入所してから来所時、連絡したりして要望や意向、苦情を尋ね理解、納得していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の来所時には声を掛けて、要望、意見、苦情を聴いて、その都度職員皆で話し合いをし運営に反映させている。	利用料は振込にせず、直接持参してもらい、家族の来所を増やす事により、意見や要望を聞く機会を増やすようにしている。入居者の「食事のお膳の中に果物等デザートも入れて欲しい」との要望があり取り入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで職員の要望、意見聞き、入所者のケア目標もスタッフ皆で話し合い介護方針を確認し合っている。	普段でも職員と管理者は常に話しやすい状況にあるが、月に1回のミーティングでも職員の意見や要望に応えている。例えばトイレ介助時の泡石鹸の導入や同業者の見学等の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1度は内部で勉強会をし、資格取得や研修等は率先して促している。日々自由に意見が言えるような雰囲気作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	色んな研修・勉強会に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月1回の連絡会で各グループホーム順番に開催場所を変え訪問し、情報の共有、サービスの質向上に役立てるために交流を積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意見、意向には日々耳を傾けてその都度変わったことがあれば、ミーティングを開き職員と話し合い、家族に相談し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時、入所してからも、ご本人がどうありがたいか、又御家族の要望や意向等を聴いて、ケア内容を報告し今のケアがご本人にとって一番良いケアなのかを話し合いを密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人にとってどうゆう支援を望み必要なか見極め、その都度ご家族と連絡しながら多方面からのサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に清掃、食事の準備、食事と一緒に摂りコミュニケーションを図り、発語困難者の方は表情や動作を見て、寄り添うケアに心がけ話しやすい環境作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来ていただき、現況を伝えながらご本人の様子や思いも伝えて、今後の要望を話し合っている。遠方のご家族とは手紙・電話で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅や周辺地域へドライブに行ったり、信仰を持ってる方には集会へ参加してもらっている。	馴染みの美容院へ同行したり、妹の入所施設への外出や、月に2回程教会へ出かける方等、それぞれに支援している。又、帰宅願望の強い入居者を小学生の頃住んでいた辺りまで案内すると満足して帰る方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎食、歩行がしっかりしている入所者の方が自ら配膳下膳をしてあげたり、車椅子を押して助けてあげたりと、食事、作業、レク等では笑いの絶えない様職員が間に入って談笑して関わり合いを持たせられるようにしている。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動後も会いに行ったりして情報交換をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者一人ひとりのご本人、御家族の要望、意向を聞きながら、ご本人が安心して楽しく生活できる環境づくりに努めている。	家族からの情報やアセスメント等により、入居者の意向の把握に努め、不穏時にはリビングでゆっくり話をするとうちづいてきたりする。職員間では朝の申し送りやミーティングで話し合い情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所申込み時の、ご家族からの情報を元にしなが、ご本人との日常のコミュニケーションとスキンシップで希望、意向の把握に努め、生活が楽しく過ごしやすい環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所者の一人ひとりのライフスタイルがあり食事時間、摂取する時間、入浴等違いがあるもご本人の意向思いを尊重して、出来ることは自分でやってもらいその方の時間を大切にしてもらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、御家族の意見意向を随時聞き、主治医の日常生活の留意点を活用しながらミーティングやモニタリング、担当会議を行い入所者主体の暮らしになるように出来る限り近づけた計画を作成している。	日頃のケアの中での職員の意見や家族の意向をもとに、ケア目標を毎月作成し、それから拾い上げて介護計画の案を作り、職員全体にチェックしてもらい、介護計画を作成している。入居者の状態の変化時や介護認定の更新時に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録は個別に記録して、居室担当者を決めて職員間での情報共有をし、ご本人にとって満足できるケアが提供できるように検討し計画を作成している。主治医からの指示・留意点も共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入所年数が5年2名、7年1名、10年2名と超高齢化で身体機能低下、認知機能低下し、個々の状態が日々変わるので、毎日が安全で安心して楽しく過ごしていただけるように柔軟な支援をしている。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーに買い物に出かけ地域の方と話をしたり、馴染みの美容室を利用して関係づくりを支援し、当所前を通る地域の方が立ち寄って一緒に楽しむ事ができる様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診と24時間対応してもらえる主治医から毎月訪問診療報告書が配布されるので職員間で共有しケアに繋げている。緊急時にはご家族に連絡後職員が対応し、体調の変化は日常的にかかりつけ医と連携を図っている。	本人・家族の希望により利用者全員が月2回の訪問診療を受けている。職員はかかりつけ医の「訪問診療情報」を回覧して共有しケアに活かしている。他科受診は家族対応を基本としているが、出来ない場合は職員が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中で些細な変化を見逃さず、気づいた時は管理者(看護師)、介護支援専門員(9月より看護師)に報告し確認して、必要に応じて主治医に連絡し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、その病院の主治医にムンテラを希望し病状確認して出来るだけ早期退院出来るように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	超高齢化に伴って終末のあり方を早期の段階からご本人は難しい場合はご家族に十分に説明し、段階を得ながら主治医を交えて面談、文章で方針を確認し、看取り希望の時は支援の仕方を説明、悔いのないように取り組んで行く。	事業所として方針を明確にし、看取り希望の家族には文章により同意は得ている。主治医を交えて面談・説明してもらっている。職員が不安なく看取りが出来るように院内研修・勉強会に取り組んでいる。かかりつけ医による24時間対応の体制が確保されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変する恐れのある入所者、事故発生時の応急手当や初期対応の仕方を定期的に勉強会を行い対応マニュアル作成し、対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(夜間の火災、地震、津波の避難訓練)を行い、どの職員が勤務でも対応できるようにしている。台風時には早めに対応し、避難場所は隣の家の敷地内に避難できるようにしている。	避難訓練は定期的に行われ、今年は3回実施されている。今年は夜間を想定した訓練も実施され、消火、通報、避難、どの職員が勤務でも対応できるようにしている。しかし、今年も地域の参加協力は得られていない。又備蓄も不十分である。	地域住民が参加できるような取組の工夫と非常時の備蓄の確保が求められる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴では出来るだけ女性は女性職員が介助して、トイレ誘導や室内での清拭、パット交換時は戸、カーテンを閉めています。入所の方が誇りやプライバシーを損ねないように声掛けには言葉遣いに注意している。	職員は入居者一人ひとりの誇りや尊厳を損なわないように、丁寧な言葉使いを心がけ、語順に注意し対応している。排泄や入浴時は、戸やカーテンを引き羞恥心に配慮しながら支援している。個人情報の保護にも努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人、ご家族の意見、意向を聞きながら一人ひとりの生活パターンを把握し、訴えやすい環境、馴染みの関係作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのライフスタイルがあり、体調や気分が毎日違っているため、業務内容を優先するのではなく、日によって個々の異なるペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が自ら好きな服を並べて選んでいる入所の方。外出時は化粧をし、素敵な服を選んで、美容室には定期的に行かれている入所の方もいる。選べない方はご家族からご本人の好みを聞きその人らしさを大切にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食べやすさ、好みに合わせた食事の提供し、職員と一緒に会話を楽しみながらテーブルを囲んで食事をしている。買物、配膳下膳、御膳拭き等進んで手伝ってくれる。	食事は事業所で職員が調理し、一人ひとりの食べやすさ、好みに合わせた食事を提供し、完食している。職員も一緒に食卓を囲み食事を楽しんでいる。入居者の中にはスーパーへ買出しに行ったり、配膳、下膳等自ら手伝う方もいる。時々職員と一緒に外食に出かける事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックし、沖縄ならではの季節の食材を使用し馴染みの献立にして、一人ひとりの体調に合わせてたぎみやミキサー食にして、トロミの必要な入所の方には必要に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分で出来る方は声掛けて自室で歯磨き、うがいてもらい、介助が必要な方は口腔内の状態を確認しながら口腔ケアし入れ歯のチェックもしている。入れ歯は週2回ポリドントを使用している。		

沖縄県(グループホームあさぎりの里 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェックを活用しながら一人ひとりのパターンを把握し、声掛け誘導しプライバシーにも配慮して、入所の方が自立できるように支援している。	排泄チェック表の活用により一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーにも配慮して声掛けし、トイレ誘導の支援をしている。尿意、便意の訴えができない方でも表情や行動、習慣を活かす工夫により自立し、布パンツになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認して、下剤は使用せず、寒天ゼリーや野菜ジュース、食物繊維が多く入っている食材を摂取したり、主治医に相談して緩下剤を処方して調節をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、入所の方の体調やその日の気分によって柔軟に対応している。拒否ある時には無理せず、時間を置き声掛けご本人が納得してから入ってもらっている。同性介助を心がけている。	入浴日は週2回と決まっているが希望があれば何時でも対応し、入浴しない日は清拭、足浴を支援している。嫌がる時は無理せず本人に合わせて対応している。同性介助とし、脱衣所はカーテンを引いて羞恥心に配慮し、冬場はヒーターで暖めている。希望があれば浴槽に入る方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所の方一人ひとりの生活パターンに合わせた対応で、無理をせずご本人の様子を見ながらリビングで一緒に過ごし、夜間眠れない入所の方には、お茶を飲んでもらい談話しリラックスした雰囲気作りをして安心して入眠してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医より服薬管理情報は職員が見えるところにコピーし保管し準備時には確認しながら一人ひとりの専用カップに入れ食事と一緒に出し、飲み間違い、飲み忘れのないように注意をしている。症状の変化が見られたら主治医に報告し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所の方一人ひとりの好みの違いがあり皆が参加できて楽しいレクリエーション、外出等を見つけて支援している。中庭に出て食事やおやつ、遊びをして楽しんでいる。歩行のしっかりし元気な入所者は車椅子を押したり、配膳下膳をしたりと役割が持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所の方の一人ひとりの体調や希望に添えるように、無理のない支援をしている。月に2回の教会集会、美容室にパーマをかけに外出する入所者、近隣のスーパーに買い物と一緒に出かけるなど各々に合わせた対応で支援している。	天気のいい日は車椅子利用者も一緒に園庭を散歩したり、玄関先や中庭で日向ぼっこをしている。職員と一緒に買い物に出かけたり、美容室に出かけたり、毎月2回定期的に教会の集会に出かける方もいる。無理のない個別の外出を支援している。	

沖縄県(グループホームあさぎりの里 )

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を預かっている入所者の方は1名で、頼まれた商品や生活消耗品、食べたい物等を、一緒に買物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご親戚からの電話には変わって話をしてもらい、小包が届いた時は、ご本人からお礼の電話をしてもらっている。帰宅願望がある入所者の方には、ご家族に電話して話をし、安心してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設設計段階には採光、通気、ゆったりとした圧迫のない廊下、バリアフリーにして高齢者に配慮した作りで、廊下や自室には写真を飾ったり、季節の飾り付けて居心地のよく過ごせるように工夫している。	共有スペースは広々と自然採光も良く明るく過ごしやすい共用空間となっている。椅子やソファを設置し安全に配慮したフロアでの歩行訓練も行われている。壁には行事の写真を掲示し、季節毎に飾りつけを替え居心地のいい空間を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者の一人ひとりの居場所、ソファ、食事時の座る場所が自然に決まっています。気のあった人が会話を楽しめている。玄関内、外にベンチを配置しているので好きな時に座って過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、ご家族や親戚等からのプレゼントや自宅ですべて使っていた食器や持参のものを使ったり、飾ったりしている。ご本人やご家族の希望で畳を使用したり、状態に合わせて寝具で休んでもらっている。	居室には整理ダンスやベッド、洗面台が設置されている。事業所の配慮で日めくりカレンダーを備えて、毎日めくってもらっている。本人の希望や状態に応じて畳にマットレスを使用したり、使い慣れた寝具や衣類、時計等を持ち込んで自分らしい部屋を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室での行動は、入所者の方一人ひとり出来ることの違いがあり、出来ることは声掛け、見守り自立できるように支援し、危険となるような物は置かないように環境整備を努めている。共有空間でも同じく安全な環境づくりにし、安全で安心して楽しく生活できるように工夫している。		